

○ 事前研究会からの変化

(1) 体づくり運動（体力を高める運動）

- ・ 事前研究会の時は、ワークシートをその場に置かせたまま活動に入ったので、運動時に邪魔になってしまい、安全への配慮が足りなかった。しかし当日は、かごに入れさせて活動したことで改善した。また、運動を選択する場の設定について、事前に掲示し、差し示しながら説明していたことで、どこで運動を行うのが明確になり、準備が素早くなった。
- ・ 体力テストの結果を課題設定時に活用したことで、単元を通した自分の課題を児童が意識できるようになった。そして、運動がどのような能力を高めていくのか、どのような動きを使って運動に取り組みば良いのかを、付箋を使って考えさせ掲示したことで、自分の課題を解決する運動が何かを考えられるようになった。
- ・ グループでの課題を解決する際に、ホワイトボードをグループに一つずつ配り、話合いに活用させたことは、友達からのアドバイスや、作戦を立てるための交流に有効だった。運動の途中でも、友達と話をして動きを確認し合うことを奨励していたため、上手になっている他のグループの様子を観察し、自分のグループに生かす姿も見られた。
- ・ ワークシートに「個人のめあて」と「反省」を毎時間書かせていくことで、運動のどんなところがポイントで難しかったのかを振り返ることができ、次の課題を見付けやすくなった。

(2) 保健

- ・ 事前研究会では、話合い活動の内容がなかなか深まらなかった。そこで当日は、友達の考えた生活習慣の改善策に、さらにプラスワンしてあげるという話合いの視点を与えたり、お菓子に限定せず、調味料の選び方にも話題を広げたりしたことで、より活発に意見交換をする姿が見られるようになった。
- ・ 事前研究会では、「食生活について考えよう」というめあてに対して、児童が自分たちで考えたまとめが「運動」や「睡眠」にまで広がっていた。しかし、当日は、資料提示の順番を入れ替えたり、まとめに用いるキーワードを全体で確認してからまとめを行わせたりしたことで、めあてに対応したまとめを考えることが出来た。

○ 視点に対する最終的な成果

(1) 探求的な学習の在り方～課題（めあて）設定とその解決について

- ・ 体づくり運動についても、保健学習についても、児童に課題意識をもたせることは難しい。しかし、体づくり運動では体力テストの結果等をもとに自己の体力について考えるきっかけを与え、それをもとに体づくり運動に主体的に取り組んでいる姿が見られた。
- ・ 児童一人一人が自分に合った課題を設定することができ、その課題を解決するために場や教具を選択する姿が見られた。また、振り返りの際にも、授業の始めに立てた自己の課題に対する感想等を書けている児童が多かった。
- ・ 場や教具の工夫を行ったことで、児童が意欲的に運動に親しむ姿が見られ、児童が運動の楽しさや体を動かす心地よさを感じることができた。

(2) 協働的な学習の在り方～わかる学習活動について

- ・ 教師が教えるべき内容をしっかりと教えることは大切である。教えるべき内容と考えさせる（工夫させる）内容をしっかりと区別し、授業展開をすることができた。
- ・ 運動のポイントをクラス全体で共有する時間を確保したり、上手に動ける児童を取り上げて称賛したりしたことで、児童が運動を行う上でよりポイントを意識して運動を行うことができた。友達同士で具体的な言葉やポイントを押さえたアドバイスをしたりすることができた。
- ・ 運動のポイントや重要語句を掲示することで、児童が大切なことを理解して、主体的に活動を進めていくことができた。



【(保健) パワーポイントを使った資料提示】



【(保健) フットポンプを使った体験活動】



【(保健) グループでの意見交換】



【(体育) 全体での運動のポイントの共有】



【(体育) グループでの課題解決】



【(体育) 自分の課題に合わせた運動】